



発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
電話 東京(03)5777-2351代表  
©日刊自動車新聞社2021

6月16日  
(水曜日)

今年、創業70周年を迎えるグローバルサプライヤーのオーハシテクニカ。国内外に生産拠点を展開する「ファクトリー機能」、約300社の協力部品メーカーとのネットワークで幅広い製品を調達する「ファブレス機能」、加工技術を使った新製品開発の「技術開発機能」によって納入先のニーズに対応した自動車部品を供給している。強みの加工技術に磨きをかけて新規受注を開拓、事業の拡大を図る。

(藤原 稔里)

70周年を振り返って

「これまで『ファクトリー機能』と『ファブレス機能』、『技術開発機能』に加え、グローバル展開の4本柱で事業を拡大してきた。2008年のリーマンショック以降、タイの洪水や東日本大震災、昨年は新型コロナウイルス感染

## オーハシテクニカ

### 柴崎 衛社長



拡大とさまざまな危機に直面したものの、多くのステークホルダーに支えられて無事に70周年を迎えられた」

前期の業績は

「20年3月期は米中貿易摩擦による陰りが業績に影響し

#### インタビュー

## 加工技術を磨き

## 脱炭素にも貢献

きたため、今回も徐々に挽回していくだろうと前向きに捉えている」

「自動車の電動化を見据えて注力している新規受注の開拓状況は

「エンジンを搭載しない電気自動車（EV）の普及が拡大することによって、当社製品の受注が一気に減るとい

た。21年3月期は改めて頑張るぞと、受注活動に注力する方向だったものの、コロナ禍で世界的に経済が低迷した。国内外の落ち込みをモロに受けた。現在は回復しているが、海上輸送の混乱やコンテナ不足など懸念材料もある。こうした問題に自動車業界はこれまでいち早く対応して

わけではない。新たなニーズを取り先とのコミュニケーションの中で掴んでいく。特に、電動化や自動化によってアクチュエーターの需要は増える。軽量化や省スペース化に加え、接合の強度が求められる。ここに当社の金属溶接技術『圧入プロセス接合』が生きてくる。前期は

鹿工場に集約した。生産効率化と競争力強化が狙いだ。現在、新規受注した製品について、どの製品を集約したライオンで製造するかを選定している段階。海外グループ会社では新規受注などの対応に向けて生産能力を増強している。米国では現行の生産ラインの効率化などを進めた。中国では

2社から新規受注して業績に大きく貢献した。圧入プロセスは、エクシジョン接合を高度化できれば、トランスミッションやモーター関連部品に用途が広がる」

工場が手狭になっていったため、約4億円を投じて拡張した。タイはメインの設備の老朽化が進んでいたため、設備を刷新した。」

「工場の生産性向上の取り組みは

「今後、ファクトリー機能とファブレス機能の境目は徐々になくなっていくだろう。当社の資本力と営業力を提供

「昨年7月に国内子会社のオーハシ技研の仙台工場を鈴

「協利企業との連携強化は

## 協利企業と一心同体で新規受注拡大

することで、協利企業と一心同体となって新規受注を拡大することができる。すでに成果が出ているため、今後さらに連携を深めていきたい」

「カーボンニュートラルに向けた取り組みは

「ビジネスモデルを脱炭素にひも付けて、どう取り組むかの方向性を検討中だ。経済的社会的価値を生み出すものづくりを実現する。まずはEVや燃料電池車（FCV）など、脱炭素を達成するための車両に欠かせない部品の加工技術開発に磨きをかけることが当社の役割だと認識している」

〈プロフィール〉しばさき・まもる 明治学院大学卒、1989年オーハシテクニカ入社。2003年執行役員、07年取締役、14年常務取締役、15年6月から現職。埼玉県出身。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2021年6月16日 日刊自動車新聞 3面

©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。